

【小林先生よりメッセージ】

皆さん、本日の研修お疲れ様でした。支援戦略について少しでも皆さんが考える上で参考になれば幸いです。質疑応答でも非常に充実した議論が出来ました。深く本質的な質問をしてくださった方々に改めてお礼申し上げます。ただ、時間の先約もあり、十分に展開できなかったポイントがあるので、幾つか補足させていただきます。

1) ToC と支援戦略の重要性

⇒今日の討論では、実行団体の立場に立ち、上から目線ではなく、パートナーとして共に考え、質問を重ねることで気づきを得ていくことの重要性を強調しました。これはいくら強調してもしすぎることはありません。他方、実行団体の気づきを促し、目標を共有し、組織基盤構築や環境整備に共に取り組んでいくためには、資金分配団体として明確な Theory of Change と支援戦略を持っておく必要があります。この点をくれぐれも忘れないようにお願いします。資金分配団体が白紙の状態で行う対話を開始しても成果は生まれません。

2) 実行団体の現状を把握することが出発点

⇒対話を開始するに当たり、まずは、実行団体の現状を把握することも重要です。組織基盤構築を目指すのであれば組織診断は不可欠です。また、それ以外の支援を行うに当たっても資金分配団体として事前チェックシートを用意し、実行団体がどのようなリソースを持ち、何を目標しているのか、そのために何を必要とし、どのような課題に直面しているか等を把握することが求められます。これらの結果をもとに、資金分配団体と実行団体が問題点を共有し、どうすれば良いかを話し合うことが対話の出発点となります。

3) 支援戦略を踏まえた対話

⇒さらに、資金分配団体としての ToC と支援戦略を実行団体と共有することが次のステップとなります。例えば、コレクティブ・インパクトを目指すのであれば、資金分配団体が目指すコレクティブ・インパクト目標とこれを実現するために資金分配団体として取り得る支援メニューを実行団体に提示し、実行団体として何が必要かを確認しながら、事業計画を策定していくことが考えられます。他の支援戦略も同様です。実行団体の意見に耳を傾けることは重要ですが、それだけでなく資金分配団体の目標と戦略を共有し、その実現に向けて必要な支援や活動を共に作っていくことが鍵となります。

4) 短期アウトカムと出口戦略は現実的に

また、短期アウトカムと出口戦略は、3年間で現実に出来る目標を設定しましょう。「関係者がお互いに助け合うコミュニティが形成される」というような抽象的なアウトカム設定をどうしても作りたくなりますが、そうではなく受益者や実行団体、および社会環境を具体的にどのように改善したいのかを、測定可能な指標で具体的に設定することが重要です。目標が具体的であれば、活動やアウトプットも精神論ではなく、具体的にになります。